



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこばと

2021.2

No.443

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



越谷レイクタウンの昔と今

鈴木 功(草加市)

越谷レイクタウンは、JR 武蔵野線沿線にある国内最大級のショッピングモール「イオン越谷レイクタウン」、及び、都市開発された街の総称です。中心部には大相模調節池(人工池)があり周囲は歩道が整備されています。調節池ではボート遊び、周辺ではバーベキューもでき、多くの方がショッピングやレジャーに訪れています。私はこの地で約 30 年間、野鳥観察をしています。時代の流れと共に変遷をたどってきたフィールドを思い出しながら紹介したいと思います。

● 昔は広々とした田園風景 (1990 年代)

私は小学生の頃より野鳥観察を始めました。実家は草加市青柳で柿木田んぼ(草加市柿木町)は家から自転車で直ぐに行ける身近な場所でした。自転車で八条用水路沿いを北上します。現在は3面護岸の用水路ですが、当時は自然護岸で稲作が終わる秋から冬は水が落ちて、タシギ、クイナ、コガモ、オオジュリンなどを見ながら進むと、そうか公園でした。通い始めた頃は造成中で、北側の高い盛土の草原にコミミズクが飛びました。その北側には草加市柿木町～越谷市東町・大成町(現、越谷レイクタウン)まで、広大な水田地帯がありました。

4月早春、田んぼに点在するヨシ原ではオオジシギが飛び出します。田植えの頃になるとムナグロが増えてきて300羽以上。中にはキョウジョシギ、キアシシギが混じり、チュウシャクシギは10～20羽の群れで、数か所に分散しています。早朝、夕方はタマシギが良く通る声で「コー・コー」と鳴きました。

私はその鳴きマネが得意で、声を鳴き返すと♀が慌てて飛んできます。縄張りを主張する為ですが、相手はいない訳で不思議そうに目の前に降りてきました。

田植え後はシラサギ類が増えて、アマサギの小群もあちこちに、ヨシ原ではオオヨシキリ、少数ですがコヨシキリ、ヨシゴイが鳴き、ヒクイナが来た年もありました。

冬期の田んぼにはタゲリの群れ、チョウゲンボウ、コミミズク。そして今は姿を消したシラコバトの小群も田んぼに降りて餌を探していました。当時は普通に見られる鳥でした。

● 造成中は野鳥の楽園

2000年頃より田んぼの埋立てが始まり、同時に数か所の池が掘削されました。埋立て場所は土盛りにすると一定期間は放置される為、雑草が生い茂る広い草地になりました。ウズラ、キジ、オオヨシキリ、ホオジロ類など草原の野鳥が集まり、それを狙ってオオタカ、ハイタカ、ノスリ、チュウヒ、ハヤブサなどの猛禽類も多く見られました。ヨシやガマが茂る池では多数のカモが越冬。秋に干潟ができた年には埼玉とは思えない程、多くのシギ・チドリ類が飛来しました。

この当時、最も楽しみだったのは夜の探鳥でした。工事エリアには木の杭が沢山並び、夜になるとコミミズク、トラフズクがとまっていた、オオコノハズク、ヨタカを見た事もありました。

この期間中にはサカツラガン(野生個体かは不明)、コハクチョウ、カワアイサ、ヨーロップアウネン(県内初記録)、アメリカウズラシギ、サルハマシギ、コシヤクシギ、セイタカシギ(繁殖)、ツメナガセキレイ、キガシラセキレイ(越冬、下写真 2007. 12. 2 撮影)、ツリスガラ、コホオアカ(越冬)、シベリアジュリン(越冬)など、県内では貴重な野鳥が多く観察できました。まさに野鳥の楽園でした。

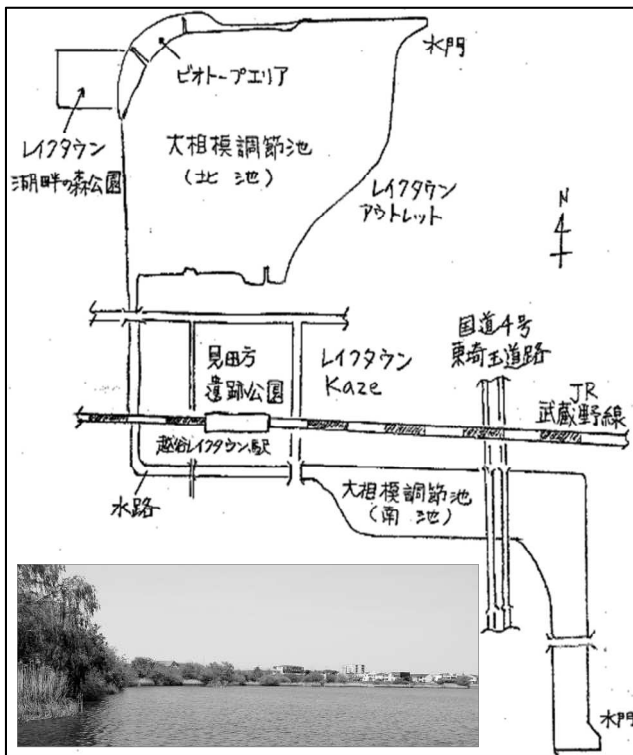


● 今の越谷レイクタウン

2008 年 3 月には越谷レイクタウン駅、同年の 10 月にはイオンレイクタウンが開業。2012～13 年頃には、造成も終わり現在に至っています。今、野鳥が見られるのは限られた僅かな場所のみです。

大相模調節池(北池)の北西にビオトープエリア(地図内写真)があります。ビオトープエリアは小規模ながら水辺にヨシ、ガマが茂り、湿地に生える木が植樹されています。年々、木も成長していて最近是小鳥類を多く見る事ができます。水辺ではカワウ・カモ類・サギ類などが、休息しています。

大相模調節池(南池)も面積は狭いながら水鳥が見られますので一緒に回っています。



● 2020 年 12 月現在、大相模調節池(下・写真)とビオトープエリア周辺の野鳥

【通年】カワウ、アオサギ、チョウゲンボウ、キジ、バン、カワセミ、シジュウカラ

【夏】ツバメ、コアジサシ、オオヨシキリ

【冬】カイツブリ、カンムリカイツブリ、カモ類、イソシギ、オオバン、ユリカモメ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、アオジ、オオジュリン、ベニマシコ、時々ハジロカイツブリ、オオタカ、ハヤブサ、クイナ、アリスイ

【春・秋】ミサゴ(秋)、クロハラアジサシ、イソヒヨドリ(繁殖している可能性有)、ムシクイ類、ヒタキ類、コムクドリ

【珍しい野鳥】オオミズナギドリ、コシジロウミツバメ (右写真)、シロカモメ

● 最後に

このフィールド(柿木町・越谷レイクタウン)で野鳥の観察記録を取り、あと数年で 30 年になります。これまでに観察した野鳥は 190 種類以上になりました。30 年分の記録が集まった時には、何らかの形で公表したいと考えています。そして、これからもフィールドを見守り野鳥観察を続けたいと思います。



いつか、良いことにつながりますように
中西悠人(東松山市 中2)



上の写真は、この数年、僕の庭に毎冬来ていた♀のジョウビタキ（ジョビ子）です。特にお気に入りの写真です。ふくふくにふくらんで寝ていました。僕が至近距離から撮影しているのに気付いて、時々目を開けてこっちを見て、また寝てしまいました。僕に気を許してくれたのかと思って嬉しかった瞬間です。母の一眼レフカメラを借りて撮りました。F値を解放し過ぎて少しボヤけています。

今年の冬は来ませんでした。去年の冬のことを思い出すと、あれが最後だったのかと切ない気持ちになります。

先日、庭の隅に驚くほどたくさんの羽が散らばっていました。僕の推測では近所の野良猫がスズメを襲ったのだと思いました。それは自然の摂理なのかもしれませんが、今年来なかったジョビ子も、もしかしたら何者かに襲われたのだらうかと、そのシーンを想像するだけで、僕の胸の奥はぎゅっと掴まれたような感じです。

しかし、僕が彼ら（野鳥）にできることなど何もないと思うたびに、なんだか悲しい気持ちになったりします。

そこで、僕は自分に嬉しいことがあった時に、お小遣いから千円を寄附することにしました。前回（2020年10月号）、僕のコゲラの記事を掲載して頂いた時も、嬉しくて寄附をしました。寄附先はそのほとんどが日本野鳥の会です。まだほんの数回ですが、そんな庭で命尽きたスズメの涙も、そのスズメに流した僕の涙も、いつかは巡り巡って野鳥にとって良いことにつながりますように……。

コロナ禍でボランティア活動ができなくなっていました。このような時でも、何か自然のお役に立てれば嬉しいなあ、と思っています。野鳥の会では何かボランティアできる仕事はありませんか。僕にできることがあったら、是非紹介してください。よろしくお願いします。

（編集部 冬鳥調査を紹介しました）

トモエガモ、ドングリを喰らう！
浅見 徹(さいたま市)



2月のある日、見沼自然公園の池に今季もトモエガモが来ているというので、行ってみました。9時頃、まだ人は少なく、餌をあげる人もいません。ふと見ると岸边にトモエガモ。それも、♂♀ペアでしきりに地上で餌を食べています。慌ててカメラを構えて撮ったのがこの1枚。

何と、家で確認したら♀がドングリ（クヌギのようです）を咥えているではありませんか。オシドリがドングリを食べるのは図鑑で知っていましたが、トモエガモも？

野鳥情報担当のFさんに写真を送ったら、「私も見たことがあります」と、同じ見沼自然公園の池の岸边でドングリを咥えるトモエガモのオスの写真を送っていただきました。トモエガモはドングリを常食しているのでしょうか。皆さん、知っていました？

ネットで検索したら、動画までアップされていました。トモエガモも好んでドングリを食べるようです。

手持ちの図鑑を読み直したら、水中に沈んでいるドングリを食べることが書いてありました。陸上でも食べてまーす。



野鳥情報

さいたま市見沼区染谷 思い出の里市営霊園南側の森

◇7月2日、キビタキの囀りが聞こえてきた。この時季だと、ここで繁殖?! (浅見 徹)。

草加市柿木町 ◇7月5日、東埼玉道路、東側の産業団地建設工事現場でクロハラアジサシ夏羽1 (下写真)、コアジサシ成鳥53 (抱卵個体14)。7月11日、コチドリ33、コアジサシ成鳥25 (抱卵個体10)、幼鳥2。7月26日、コチドリ22、トウネン成鳥夏羽1、コアジサシ成鳥11 (抱卵個体3)、雛5。8月3日、柿木田んぼでムナグロ成鳥1、コアジサシ成鳥10、幼鳥7、雛2。8月23日、チョウゲンボウ幼鳥1、コアジサシ成鳥2、幼鳥4。コアジサシ幼鳥は親鳥と同じサイズまで成長していた (鈴木功)。



蓮田市 西城沼公園周辺 ◇7月5日、昨夜の雨で出来た休耕田の水溜りで、ムクドリの群れ15~20羽が水浴び。中に若鳥も混じっていた。ハシブトガラスの巣立ち雛が赤い口を開けて、鳴いていた。他にツバメ3、カワラヒワ4、カウ1、シジュウカラ3、オナガ3など。7月15日、ムクドリ95が電線にずらっと並んだ。ヒマワリ畑の電線にカワラヒワが2~3羽。シジュウカラの囀りが春先と変わって聞こえた。オナガが次々と移動していった。その数50+。7月19日、ムクドリは少し減って52羽。シジュウカラ5+とメジロ5+とコゲラ1の混群がクヌギとカシとサクラの樹を移って

行った。他にハクセキレイ2、オナガ1など。7月24日、久しぶりにコジュケイの声を聞いた。ヒマワリ畑にカワラヒワが2~3羽、ムクドリ88。他にキジバト3、ツバメ2、メジロ3、ハシブトガラス6、ハシボソガラス6など。8月3日、ムクドリ50+が電線に並んだ。8月9日、エナガ5+とメジロ10+とシジュウカラ5+の混群が植木畑を移動して行った。8月14日。ツミ♂と思われる鳥がムクドリを執拗に追いかけていた。8月24日、サシバ1、屋敷林の上空でカラスに追われていた。8月31日、サシバ4が屋敷林の上空で輪を描いた。コジュケイが久しぶりに囀った。9月8日、サシバ1、屋敷林の上空を旋回。9月9日午前8時50分、サシバ1が自宅上空を西から東に通過。ツバメ3、飛翔。ここで今季終認。9月10日、モズ♂1、ここで今季初認。9月11日、サシバ1、屋敷林の間を飛び抜けた。9月19日、ムクドリ39が電線に並んだ (長嶋宏之)。

久喜市葛蒲町小林 ◇7月9日午後12時15分、アマサギ2、今季初認。水田にダイサギ8羽と共にいた (小貫正徳)。

さいたま市桜区通称大久保農耕地A区 ◇7月9日午後3時15分、ムナグロ1。休耕田でコチドリ20~30とともに採餌行動。外見行動ともに特に異常な様子は見られなかった。7月にムナグロを観察・撮影したのは、初めて。翌日には見えなかった。7月27日午後2時23分、ムナグロ4。上空を旋回後、西方に飛去 (海老原美夫)。

さいたま市岩槻区横根 ◇7月10日、電線に久々にゴイサギ成鳥1を見る。8月6日昼過ぎ、はるか上空をサシバ1が旋回する。8月27日、電線のムクドリ30の群れ中にコムクドリ1 (鈴木紀雄)。

行田市 さきたま古墳公園 ◇7月16日、シジュウカラの巣立ち雛が5~6羽、忙しく枝移りしていた。その先の枝先でホオジロ♂が気持ちよく囀っていた。ヨシ原で数羽のオオヨシキリが時は今とばかり、囀っていた。他にツバメ3、セッカ1、ムクドリ9、キジバト2、スズメ10+など (長嶋宏

之)。

白岡市 柴山沼 ◇7月16日、いつも、沢山
いるオオバンが見つからない。ガチョウが
浮島でのんびりくつろいでいた。ツバメが
1羽、水面をかすめて飛んでいった(長嶋
宏之)。

川越市 伊佐沼 ◇7月16日、アカガシラサ
ギ夏羽1(下写真)、沼のヨシ原を畔に利
用していた。夕方、6時15分頃に戻ってき
た(鈴木 功)。◇8月22日、カルガモ、カ
イツブリ、キジバト、ヨシゴイ、アオサギ、
ダイサギ、コサギ、コチドリ、ハシボソガ
ラス、ハシブトガラス、ツバメ、ムクドリ、
スズメ。9月16日、カルガモ、ハシビロガ
モ、シマアジ、コガモ、カイツブリ、キジ
バト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサ
ギ、バン、コチドリ、セイタカシギ、アメ
リカウズラシギ、クロハラアジサシ、チョ
ウゲンボウ、ムクドリ、スズメ、カワラヒ
ワなど(嶋田富夫)。◇8月31日、カイツ
ブリ親子1組、アオサギ1、カルガモ多数、
ハクセキレイ2など(長嶋宏之)。



さいたま市見沼区膝子 ◇7月18日、草を刈
った休耕中の畑でコチドリ成鳥3、若鳥2。
ヒバリ、ハクセキレイが採餌。ツバメ2も
地上に降りる。近くの灌木にチュウサギ3。
8月24日、畔に佇むチュウジシギ1(鈴木
紀雄)。

蓮田市笹山 ◇7月18日、チュウサギ20+、
カルガモ20+、アオサギ1、ダイサギ1。
田植え間もない水田にセイタカシギ成鳥
2、若鳥4。別の水田でもセイタカシギ成
鳥1、若鳥1。7月21日、チュウサギ多数、
ダイサギ、アオサギ、アマサギ5。7月18

日と同一個体と思われるセイタカシギ計
8。カルガモのヒナ4が道路脇の水路に落
ちて、泳ぎながら「ピーピー」と鳴い
ている。近くを親鳥1がウロウロ。板状の
ものを斜めに差し掛けておいたが、上がっ
てくれるかどうか。近くで「ウウウ(真ん
中の音が高くなる)の前置きから「ポ〜ウ
ポ〜ウ」の声、稲の間にタマシギ♀1発見。
7月27日、サギ類50+。多くはチュウサギ。
その中にコサギ7(うち若鳥3)、ダイサ
ギ2、アマサギ3。ゴイサギ2飛翔、ケリ
1が飛来。「ピピピ…」とタカブシギ1が
飛び立つ。ジシギ類2(おそらくオオジシ
ギ)飛翔。畔のジシギ、ほぼ間違いなくオ
オジシギ。「コウコウコウ」とタマシギの
声。さらに高く尻上がりの「クォー、クォ
ー」の声もタマシギのようだ。姿は見えず。
セイタカシギ2飛翔。8月5日、水のある
休耕地でオオジシギ2、コチドリ5、イソ
シギ1(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜 ◇7月18日、上沼でカイツブリ
成鳥1、若鳥1。電線でホオジロ♂1、囀
る。ガビチョウの声が響く。アマサギ2、
チュウサギ10など(鈴木紀雄)。

春日部市増田新田 ◇7月30日午前10時39
分、曇り空の下、突然、自宅上空から「キ
ッ」、「キッ」の甲高い声が聞こえた。見上
げると、緩やかに羽ばたく中型のタカ1羽
が西から東へ通過。その後、反転して「キ
ッ」、「キッ」と鳴きながら北へ飛び去った。
広めの翼、翼先は尖らず、下面は白く、大
きさはハシブトガラス位の感じだった。オ
オタカではないかと思う(石川敏男)。

さいたま市中央区八王寺5丁目 ◇8月1
日、マンション上空でツミ2羽が旋回。8
月4日、かやのき団地内でツミ、オナガ、
カラスが三つ巴の追いかけ合い(大塚純
子)。

伊奈町小室(丸山地区) ◇8月3日、オオカ
メノキの実にムクドリ約50の群れ。その中
にコムクドリ1を肉眼で観察(鈴木紀雄)。

春日部市倉常 ◇8月6日、休耕地でコチド
リ37、イソシギ2。8月23日、ツバメチド
リ1、アオアシシギ1、キアシシギ1、オ

ジロトウネン1、タカブシギ5、ムナグロ36、コチドリ35。8月29日、コチドリ65、イソシギ2、オジロトウネン1、ムナグロ40、チュウジシギ?1（鈴木紀雄）。◇8月23日、休耕田でツバメチドリ冬羽1、ムナグロ成鳥38、アオアシシギ幼鳥1、タカブシギ幼鳥2、キアシシギ成鳥1（鈴木功）。◇8月24日、ツバメチドリ冬羽1（下写真）。ムナグロ26、大部分が成鳥♀のようだ。成鳥♂は少ないようだ。キアシシギ2、コチドリ10+。他にセッカ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、ムクドリ50±（長嶋宏之）。



行田市須賀(54392329) ◇8月9日、カルガモ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ムナグロ、コチドリ、イソシギ、ツバメチドリ、チョウゲンボウ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイなど（嶋田富夫）。◇9月13日、休耕田でイカルチドリ1、タシギ30±、クサシギ1、タカブシギ10±、オジロトウネン幼鳥2、ウズラシギ成鳥2、幼鳥1、エリマキシギ幼鳥1、ツバメチドリ2、オオタカ幼鳥1（鈴木功）。

鴻巣市大間一丁目 ◇8月9日午後1時20分頃、ショウドウツバメ1が弧を描いて空を横切る。今季初認。猛暑の続く毎日だが、秋の渡りはもう始まっている。一昨日が立秋（榎本秀和）。

さいたま市岩槻区本町1丁目 ◇8月12日、車の運転中に道脇の民家の敷地の地面から屋根に飛ぶ鳥…ヒヨドリにしては違和感あり。屋根の上で短めの尾を振っている。シルエットなので♂♀は不明だが、イソヒヨドリだった（鈴木紀雄）。

川越市古谷本郷(53396474) ◇8月15日、オオハシシギ夏羽1、タカブシギ1。8月21日、シマアジ♂エクリプス1、ムナグロ80、オオハシシギ夏羽1、ヒバリシギ1、タカブシギ1。シマアジはカルガモ10+に混じっていた（鈴木功）。◇8月22日、カルガモ、シマアジ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、コチドリ、オオハシシギ、ヒバリシギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ムクドリ、スズメ（嶋田富夫）。◇8月31日、オオハシシギ1、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ等（長嶋宏之）。◇9月6日、コチドリ40、タシギ2、タカブシギ数羽、冬羽に変わりつつあるノビタキ♂1（鈴木紀雄）。

草加市柿木町 そうか公園 ◇8月16日、センダイムシクイ3。9月5日、ツツドリ成鳥1、センダイムシクイ1（鈴木功）。

越谷市越谷レイクタウン ◇8月16日、イソヒヨドリ♂1（鈴木功）。

上尾市地頭方 ◇8月22日早朝、愛犬と散歩している際に鳥の声が賑やかだった。探してみるとイロハモミジの木にメジロ8。エナガ10、1羽がニイニイゼミをくわえていた。コジュケイ5、ヒメヒマワリにカワラヒワ7、種子を食べていた。イチョウの木周辺ではオナガ18（村越百合子）。

さいたま市北区日進町(53397428) ◇8月22日、ツミ6、キジバト、オナガなど（嶋田富夫）。

さいたま市西区 大宮花の丘農林公苑 ◇8月27日、鉄塔で、休憩中のオオタカ（右写真）、サシバ（嶋田富夫）。



表紙の写真

セキレイ科セキレイ属キセキレイ

さいたま市内の芝川で、毎日水浴びをしています。2020年10月21日14:50分頃撮影。

田口勝利（さいたま市）



緊急事態宣言発出により2月の探鳥会は全て中止とします。3月の探鳥会は、事前予約制で計画していますが・・・。

普及部

【各探鳥会（事前予約制）共通の開催要項】

1. 日本野鳥の会会員限定の先着順（ただし、埼玉会員優先）とする。
2. 申し込みは、当会のホームページからとする（開催日の4週間前から、ホームページで受け付けを開始）。
3. 探鳥会の運営は「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」（最新版が、当会ホームページの「探鳥会」>「今月の探鳥会」から閲覧できます）に沿って実施する。
4. 必須条件：マスクまたはフェイスシールドなどの飛沫防止策（ご用意のない方は参加をご遠慮ください）。
5. 筆記用具や観察用具（双眼鏡等）は、各自で用意する。
6. 万一、探鳥会開催後に参加者から感染者が出た場合には、参加者名簿を保健所に提出する。
7. 緊急事態宣言が解除されても、感染防止のため開催中止を継続する場合もある。

千葉県銚子市・銚子漁港探鳥会

期日：3月6日（土）

集合：午前7時、東武スカイツリー線 新越谷駅、または JR 武蔵野線 南越谷駅
解散：午後7時30分ころ、東武春日部駅東口。
交通：往復貸切バス（中型33人乗り。感染防止のため2席を1名で利用）。

担当：入山、近藤、佐野、藤澤

費用：13,000円（バス代、昼食代など）。

定員：12名（最少催行人数10名）

見どころ：漁港を中心に、たくさんのカモメを見て、のんびり過ごします。

その他：雨天決行。昼食付（地魚を堪能。ソーシャルディスタンスに配慮）。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：3月18日（木）

集合：午前9時、羽生水郷公園水族館前休憩舎。※今迄と場所が変わります。

交通：羽生市福祉バスの手子林・三田ヶ谷ル

ート（ムジナもん号）を利用。東武伊勢崎線 羽生駅東口 8:04 発→南羽生駅 8:21 発→「キャッセ羽生・水郷公園」下車、県道を渡り公園へ。

共催：羽生水郷公園管理事務所

解散：正午前に集合地で。

定員：20名

担当：相原（修）、相原（友）、新井、植平、茂木
見どころ：オオジュリンやヨシガモなど冬鳥を探します。アリスイができればラッキー。

注意：帰りのバスは14:50発です。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月20日（土・祝）

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交通：東武伊勢崎線 北越谷駅東口①番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 9:00 発で「松伏高校前」下車。または武蔵野線 吉川駅北口③番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 8:40 発で「松伏高校前」下車。

解散：正午ころに集合地で。

共催：松伏町中央公民館

定員：当会会員15名、共催団体募集5名。

担当：佐野、山部、植平

見どころ：公園と田んぼを歩き、留鳥や冬鳥の変化を見つけます。ツバメは来ている？

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：3月27日（土）

集合：午前8時15分、東武日光線 柳生駅前、または午前8時40分、中央エントランス駐車場。

交通：東武線南栗橋行 新越谷 7:23→春日部 7:37→南栗橋 7:55 で東武日光線に乗り換え柳生 8:10 着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーンで。

定員：20名

担当：佐野、青木、浅見（徹）、入山、小林（み）、近藤

見どころ：ヨシ焼が終わり谷中湖の水も抜かれているはず。様子の一変した遊水地で旅立つ前の冬鳥たちを探します。



行事報告

新型コロナウイルスの感染拡大により、計画されていた以下の行事は中止されました。

5月10日(日) 熊谷市 大麻生
 5月16日(土) 加須市 加須はなさき公園
 5月16-17日(土-日) 長野県 乗鞍～上高地
 5月17日(日) さいたま市 三室地区
 5月23日(土) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地 Young
 5月23-24日(土-日) 長野県 戸隠高原
 5月24日(日) 狭山市 入間川
 6月4日(木) 羽生市 羽生水郷公園
 6月7日(日) 北本市 石戸宿
 6月7日(日) さいたま市 民家園周辺
 6月14日(日) 熊谷市 大麻生
 6月21日(日) さいたま市 三室地区
 6月28日(日) 支部総会
 7月5日(日) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地
 7月11日(土) 吉川市 サギのコロニー観察会①
 7月12日(日) 北本市 石戸宿 [臨時]
 7月18-19日(土-日) 長野県 池の平・軽井沢発地
 7月19日(日) さいたま市 三室地区
 7月26日(日) 狭山市 入間川
 8月2日(日) 北本市 石戸宿
 8月8日(土) 吉川市 サギのコロニー観察会②
 8月15日(土) 千葉県 三番瀬海浜公園
 8月16日(日) さいたま市 三室地区
 9月6日(日) リーダー研修会
 9月12-13日(土-日) 新潟県 山本山高原～奥只見
 銀山平

10月17～18日(土～日) 長野県 戸隠高原

参加：11(会員11)名 天気：17=雨後曇、18=晴

オシドリ ヒドリガモ カイツブリ キジバト
 カワウ トビ オオタカ コゲラ オオアカゲラ
 アカゲラ アオゲラ モズ カケス ハシボソガ
 ラス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガ
 ラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ
 メジロ ゴジュウカラ ミソサザイ アカハラ
 ツグミ エゾビタキ ムギマキ オオルリ スズ
 メ キセキレイ ビンズイ アトリ カワラヒワ

イカル ホオジロ (37種) 初日は天気が悪く、午前中は宝光社周辺、午後は植物園での探鳥となった。植物園入口のナナカマドにアカハラがじっとしていてくれて、幸先の良いスタートになったが、今年は木の実の付きが悪く、過去によく鳥たちが見られた場所にも姿がない。不調の内に1日目終了した。2日目は天候に恵まれ、宿周辺からは後立山の山々、鏡池ではまさに鏡のような水面に映る戸隠山を見ることができた。鏡池では常連のオシドリを観察し、隋神門付近でオオルリの若鳥やゴジュウカラ、カラ類を楽しんだ。お目当てのムギマキは、植物園とキャンプ場のツルマサキ3か所でたっぷり観察できた。(菱沼一充)

10月31日(土) さいたま市 三室地区

参加：18(会員18)名 天気：晴

カルガモ キジバト カワウ バン オオバン
 イソシギ オオタカ カワセミ チョウゲンボウ
 モズ カケス ハシブトガラス シジュウカラ
 ヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ スズメ ハク
 セキレイ カワラヒワ ホオジロ (20種) (番外：
 ドバト) ソーシャルディスタンスに気を付けな
 がらの探鳥。時間が短めにもかかわらず終わって
 みれば、20種。三室名物のカワセミも全員がじっ
 くり見ることが出来た。ジョウビタキは♂♀両方
 出現。三室では珍しいイソシギも出迎えてくれた。
 やはり大勢の人と話しながらの探鳥会は素晴らしいと思う。
 (青木正俊)

11月3日(火祝) 行田市 利根大堰

参加：21(会員21)名 天気：曇後晴

キジ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガ
 モ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイ
 ツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ
 アオサギ ダイサギ コサギ オオバン イソシ
 ギ ミサゴ トビ オオタカ ハヤブサ モズ
 ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ
 ヒヨドリ ムクドリ ジョウビタキ スズメ キ
 セキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒ
 バリ カワラヒワ (34種) (番外：ドバト) 集合
 場所からハヤブサをじっくり観察。土手に上がっ
 てカモ等を観察。例年より少ないようだ。利根大
 堰の下流でセキレイ4種を確認。上空をミサゴが
 数羽飛び、1羽が魚を掴んで飛んでいた。感染防
 止をしながらでも探鳥会を行いたい。(入山 博)



●県立川の博物館令和2年度秋期企画展

令和2年9月26日(土)～11月23日(月祝)の52日間開催された「タカ・ハヤブサ・フクロウ～荒川流域の猛禽類～」に、10,936名の入場者があったなどの事業実績報告書が、協力団体である当会に届きました。

●密対連の書面評決による総会

令和2年12月11日付けで、全国密猟対策連絡会(京都市)から、「2020年度通常総会にかかる書面評決について(依頼)」の文書が届きました。2019年度収支決算報告書、2020年度予算書、2019年度事業報告書、2020年度事業計画書と、それぞれを承認するか承認しないかを記入するはがきが同封されていました。

山部直喜代表、海老原美夫副代表、小林みどり副代表の3名がメールで意見を交換、スキャナーで取り込んだそれぞれの書面を確認し、当会として4件とも承認する旨をはがきに記入、12月18日(金)に発送しました。

●本誌前月号送付先に誤り

12月18日(金)当会事務局で袋づめ作業をしていて、財団本部から送られて来た宛名ラベルに、含まれないはずの会員のラベルがあることに気づきました。

本部会員室に問い合わせたところ、「11月中旬にシステムを刷新した際、過去に東京にも所属し、現在は東京を退会されている方は野鳥誌と同封発送されるので埼玉から埼玉会報を発送する必要はないのに、誤って宛名ラベルが印刷されていたことが判明した。その結果、11名の方に、野鳥誌同封のほかに

『しらこぼと』が重複して届くことになってしまった」とのこと。

11名の方々には、財団からお詫びの葉書をお送りしました。

●ごめんなさいコーナー

前月号P.7右下、渡瀬遊水地での報告者は「鈴木紀雄」さんです。また、同号、P.8右段7行目「村瀬百合子」さんは「村越百合子」さんの誤りです。訂正し、お詫びいたします。

●会員数は

1月5日現在1,486人です。

活動報告

12月14日(月)、『しらこぼと』1月号入稿。
12月18日(金)、同1月号埼玉事務局発送分納品。

同日、同1月号を『野鳥』誌と同封発送しない会員向け袋詰め作業、浦和中郵便局から発送(海老原教子、海老原美夫、山部直喜)。

12月1日(火)～3日(木)、メール交換による役員会を開催。1月に1回、2月に7回、3月に1回の探鳥会を開催する普及部の議案を承認した。

12月28日(月)～30日(水)、メール交換による12月第2回役員会を開催。3月に4回の探鳥会と1月にIT委員会と共同でオンライン探鳥会(試行版)を開催する普及部の議案を承認した。

編集後記

冬鳥調査はその場で鳥名を記録するのが面倒。それで、予想される冬鳥と留鳥のリストを貼り付けた自作の調査用紙を作成。確認したら丸印をつけるだけ。以後、快調快調。調査が楽しい。1日の歩数もずいぶん伸びた。調査用紙も12月だけで13枚。リストは観察漏れを防ぐこともできる。(山部)

しらこぼと 2021年2月号(第443号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26

番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org

編集部へのお原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyoumu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635

〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。印刷 関東図書株式会社